

令和5年度 第5学年 授業改善推進プラン

昭島市立梓島第二小学校

| 指導の実態及び課題 | | 具体的な授業改善策 | 昭島市立梓島第二小学校 | 各教科等担当者記入欄（実施記録） |
|-----------|---|--|-------------|------------------|
| 国語 | <ul style="list-style-type: none"> ○意欲的に「読むこと」に向き合い、一生懸命音読したり、登場人物の気持ちを叙述を基に考えたりしている。 ○発表に際して、その目的や伝える対象を理解し、その場に適した資料の提示や発表の構成を考えることを苦手とする児童が多い。 ○語彙力に課題がある児童が多い。 ○話し手の意図を考えながら聞くことができていない児童が多い。 ○接続語を使ったりしながら文章を分かりやすく書くことを苦手としている児童は多く見られる。 ○友達の見解と自分の意見を関連付けて考え、新しい提案を行っていくような協働的な学習はまだできていない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字を学習するときには熟語と新出漢字を使った文章を書かせる。また、定期的に漢字テストを行い、支援児童には課外時間で習熟できるようにする。何度もくり返し書いて覚えられるようにする。 ・本校で取り組んでいる10チャレを継続し、短い文章を要約して自分の考えを伝え合うことを通して、語彙を増やし豊かな表現力の基礎を培う。 ・昭島市民科とのクロスカリキュラムによって、伝えるべき相手に対してより分かり易い構成や、適切な資料を準備する機会を計画的に設ける。 ・本校の授業改善のポイントを踏まえ、国語科を中心に据え、各教科等の授業と朝学習の時間において、「書くこと」と「話すこと・聞くこと」の場面とのカリキュラム・マネジメントを図る。 ・主体的な聞き手を育てるために、「必要に応じて聞き返す」、「相手の話の内容を確認する」など主体的な聞き方を指導する。 ・段落を意識した文章を書く活動を多く取り入れる。その際、意識的に指示語や接続語を用いて文章を書かせ、自分が書いた文章を読み返し、分かりやすい表現に書き直させる。 ・「友達の見解を尊重して聞くこと」を徹底し、自分の意見と似ているところや違うところに着目し、メモを取らせる。また、グループで意見をまとめる活動を積極的にやっていく。 | | |
| 社会 | <ul style="list-style-type: none"> ○課題に対して、意欲的かつ自ら解決しようとする児童が多くなる。 ○説明文から読み取れることはできても、資料（図・写真・表）から読み取るのが難しい児童がいる。また、読み取りはできていても、変化した原因や背景を予想し、根拠をもって伝えることができない児童がいる。 ○学習内容が自分の生活と密接に関わっていることに気づき、学んだことを普段の生活に生かそうとする児童が少ない。 | <ul style="list-style-type: none"> ・図、写真、表の読み取りから分かることや考えられることを随時ノートに書かせ、積極的に全体で共有していく中で、資料を読み取る力を身に付けさせる。また、何が読み取れるのかに気付くのが難しい児童には、個別に視点を提示して気付けるように支援する。 ・導入の際には、身近な生活の場面から入ることや、新聞、ニュースなどで関連する話題があれば取り上げるようにし、自分の生活に関わりがあることを意識させる。また、学習問題を立てる際に、自分の生活を振り返る時間を確保して、課題を捉えられるようにする。 ・学習を進めていく中で、課題を改善するために人々が取り組んだ工夫を理解できるように指導する。「自分だったらどのように解決するか。」と問い、自分事として捉えられるようにする。 ・振り返りを行う際には、自分の生活と結び付けて考えるという視点を与え、具体例を挙げながら学習感想を書かせる。 | | |
| 算数 | <ul style="list-style-type: none"> ○数直線を使う習慣が身に付いてきたことで、正しく立式できる児童が増えた。 ○問題文を読み取れないため、何を問われているのかが分からず、立式まで進まない児童がいる。特に、「基準量」と「比較量」が何なのか理解できていない。 ○図形領域において、「公式がなぜ成立するのか」などを既習事項を基に考え出し、自らの言葉で論理的に説明することができない児童が多数いる。 ○式の意味を正しく理解していない児童が多い。 ○九九やかけ算（CD層）、わり算の筆算などの計算が定着していない児童があり、定着している児童との学力差が開いてきた。 ○学習の振り返りが十分にできていない児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・問題文の中で「基準量」と「比較量」は何かを全体で確認したり、具体物に置き換えて見える形にしたりする学習を積み重ねたりしていくことで、問われていることに自ら気付けるようにする。数直線を活用した数量の視覚的・体系的な理解を継続して行う。 ・立式した後に、その理由をノートに書かせたり、発表させたりして式の意味について確認して理解させる。 ・論を立てて説明する機会を毎時間取り入れることで継続的な指導を行う。また、公式が成立する意味を丁寧に理解させる。 ・計算ドリル、計算プリントを活用する等、計算に繰り返し取り組ませることで、計算力の定着を図る。間違えたときは、似た問題を選んで、特に練習をさせる。 ・「問題把握」「自力解決」「比較・検討」「まとめ」の各段階に分け、児童がノートに記録しやすい構造的な板書に努め、声掛けを徹底する。 ・教科書やドリルの問題に取り組むなどして、学習したことを確実にできるように復習や予習に取り組ませる。学期に3回以上の反復を行う。） | | |
| 理科 | <ul style="list-style-type: none"> ○実物や現象に出会った時に、感情的な視点で興味・関心をもつ児童は多くいるが、科学的視点にまで、広げて興味・関心をもつ児童は少ない。 ○自分の経験や既習事項を根拠に、考えを発表・説明できる児童がいる。 ○体験や経験が少なく、推察することが難しい児童もいる。 ○日常の身近な現象に対する興味・関心が低い。 ○実物や実験で起きた現象をしっかり見て観察記録を書かず、思い込みで書いてしまい正しく観察記録をすることのできない児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・単元の導入時に体験を伴う活動を多く設定し、児童の興味・関心を高める。また、日常的に生き物や自然を意識できるような話題で話し合ったり、推察したりする時間を設定する。 ・体験を伴う観察や実験を多く行い、それらを通して、すぐその場で自分で推察する場面を多く設定する。その際のこれらの経験を根拠とするようにする。 ・観察する視点や比較の対象を明確に押さえるとともに、参考になる観察カードを紹介したり、カードに教師が助言を記入したりする等の指導を行い、科学的な視点で観察させる。 ・本時のねらいを明確にした上で、問題把握、予想仮説の設定、観察・実験、結果の整理、考察等、それぞれの段階を押さえ、何が分かったのか、どのように整理できたのか等を確認しながら指導をする。 | | |
| 音楽 | <ul style="list-style-type: none"> ○音符についての概念が乏しく、拍ののって正しいリズムを打つことが難しい。 ○音楽を漠然と聴いてしまい、感想を記述することが難しい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・音符を言語化して（四分音符はタンや「パン」、八分音符はタタ、「水」）技術を習得し、クラス全員で音楽に合わせてリズムを打つ楽しさを共有できるように指導する。 ・音楽を以下の二点について具体的に聴くように指導する。1、感じたこと（楽しい、悲しい、元気）2、聴き取ったこと（速さ、強弱、リズム） | | |
| 図画工作 | <ul style="list-style-type: none"> ○豊かで面白い発想をする児童が多いが、表現技術の未熟さから、描いたものが何かが伝わりにくい児童が2割程度見られる。 ○昨年度使用した金づちやのこぎりの使い方について、徹底できていない。 ○初めて使う電動糸のこぎりについて、ケガの心配がある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の思いを形にすることができるよう、描画材の提示資料を活用したり、実際に小さなサイズの紙などを使って「お話し」をさせたりする。 ・一斉指導で実践し、昨年度の復習をする。木材の固定の仕方や固定場所、切っている時の、のこぎりの傾きや自分の体や顔の位置など、繰り返し指導を行う。 ・初めて使う電動糸のこぎりについて、教師が実演するところを少人数ずつ、実際に間近で見せるとともに、ICT機器などでも分かりやすく提示し、安全に十分に気を付けて指導する。 | | |
| 体育 | <ul style="list-style-type: none"> ○最新の体力テストの結果において、男女共に50m走の結果が東京都の平均値より低いことが分かっている。コロナ禍を経て、運動をする児童としない児童で今まで以上に二極化している。 ○ボール運動やリレーなどグループで行う運動では、技能に個人差が見られるが、グループの友達とアドバイスをし合うなど協力して活動する姿が見られる。 ○機械運動では、後転がきれいにできなかつたり、補助倒立で足が上がらなかつたり、技能の個人差が大きい。 | <ul style="list-style-type: none"> ・用具の準備や、活動内容の伝達等にかかる時間をできる限り短縮し、体育の授業における児童の運動量を増やす。 ・基本的な技能面の指導を行った上で、問題解決的な学習の流れを意識して授業を行う。また、児童同士の教え合いの場面を意図的に設定し、苦手な児童に得意な児童がアドバイスする場面も設ける。 ・ボールゲームなどグループで活動する運動では、運動が苦手な児童でも活躍できるようにゲームの規則を工夫し、運動に苦手意識のある児童も意欲的に取り組めるようにする。また、グループの力が均等になるようにしたり、グループの中で教え合いが成り立つようにしたりするなど編成を工夫する。 ・年2回の体力テストの実施と、その分析に基づいた授業を行うとともに、コーディネーショントレーニングを実施し、児童の運動能力の向上を図る。 ・体育以外の休み時間には、外遊びをするように声を掛け、児童と一緒に教員も遊ぶ。 ・休み時間や家庭でできる運動を授業に取り入れ、体を動かす方法を指導する。 | | |
| 道徳 | <ul style="list-style-type: none"> ○資料を通して登場人物の心情の変化を考えることができ、「友人との望ましい接し方」や「望ましい生活」等について児童がそれぞれ考えをもつことができる。反面、大切であると自覚していても、行動に移すことができない児童が多い。 ○道徳的判断力に比べ、自分自身の生活と関連付けて、活かしていこうとする道徳的な実践意欲や態度が見られる児童は少ない。道徳の学習で学んだことを、自分事として捉え、実生活中に反映させていくことが課題である。 | <ul style="list-style-type: none"> ・価値の大切さを理解しながらも、行動に移せない理由について考えることで、より深い人間理解を促す。 ・意見を発表するだけでなく、グループやペアで考えを伝え合う時間を確保することで、他者の様々な考えに触れさせて他者理解を促す。 ・自分自身の立場からのみ考えるのではなく、多面的・多角的な立場から考えさせる発問を行う。 ・自分の経験から考えるだけでなく、教師の説話や友達の話、教材の登場人物と自己を比較させ、これまでの考えを再考させる。 ・振り返りでは、生活の中での具体的な場面を挙げながらどのように行動していきたいか書くようにさせる。 | | |
| 外国語 | <ul style="list-style-type: none"> ○外国語を使った表現活動に関して、積極的な児童と積極的ではない児童の二極化が見られる。 ○ALTの発音を聞きそれを真似する活動を中心に、外国語でコミュニケーションを取る機会を多く設定している。しかし、キーワードを聞き取ることを苦手とする児童が多い。 ○ゲームやクイズなどの活動を行う際、外国語で表現しながら行うという意識に欠け、活動のみを楽しむ様子が見られる。 ○授業の中で出てくる簡単な単語をノートに書くなど、アルファベットで書く経験を積ませているが苦手な児童が多い。 | <ul style="list-style-type: none"> ・外国語で表現する楽しさを実感させるために、チャンツ・動作化での表現・歌などを取り入れて授業を実践する。 ・授業の最初にはゲーム性のある活動を取り入れ、多くの児童が英語で発言する機会を設けるなど全員が積極的に参加できるようにする。 ・ALTと打ち合わせをすることで習熟度が低い児童への支援を考える。 ・繰り返してスピーチの練習をしたりする活動を通して、表現の仕方を定着させる。 ・外国語を使ったゲームやクイズ、チャンツなどに取り組むことで、楽しんで外国語を使えるようにしていく。 | | |
| 市民科（総合） | <ul style="list-style-type: none"> ○食糧問題が自分の生活と関係していると捉える児童が少ない。 ○学習した食料問題について自分の意見をもつことはできるが、家族や友人に順序立てて話すことができる児童が少ない。 ○食糧問題についての捉えが浅く、環境問題や紛争など様々な要素が関連して起こっていることを理解していない児童が多い。 ○調べ学習の際、簡単に調べることのできるインターネットに頼る傾向が強い。また、必要な情報の取捨選択を十分に行わないまま資料を丸写しする児童がいる。 | <ul style="list-style-type: none"> ・自分の生活への影響などについて考えさせたり、保護者の協力のもと、家庭生活で取り組むことができることはないかを考えさせたりして、捉えさせていく。 ・国語など他教科にも関連させながら、順序立てて話すことができるように学習していく。 ・食糧問題を多面的に捉えられるようにするために、世界で起こる様々な問題を取り上げ、食糧問題とのつながりを考えさせる。 ・インターネット以外の情報収集の方法や関連する書籍の紹介を行い、様々な情報収集の仕方を身に付けることができるようにする。また、それぞれの情報収集の仕方のメリットやデメリットなど特性についても理解させる。そして、課題について幅広く調べられるようにする。 | | |
| 特別活動 | <ul style="list-style-type: none"> ○学級力スタンダードを基にクラスの良いところを伸ばす話し合い、課題点を解決するための話し合いを行っている。 ○学級力スタンダードで話し合ったことを継続的に活動することには至っていない。 ○学級力スタンダードを基にクラスの良いところを伸ばす話し合い、課題点を解決するための話し合いを行っている。少しずつ学級に貢献しようと行動することが出来るようになってきた児童もいるが、偏りがある。 | <ul style="list-style-type: none"> ・学級会で話し合い活動を始める前に、学級会ノートを活用し、自分の考えと理由を事前に記入させ、積極的な発表ができるよう指導する。 ・学級力スタンダードを基に、具体的に自分たちがどのような行動をとっていけばよいのかを話し合う。 ・話し合いを基に、すすんで行動に移している児童を取り上げ、学級全体に広めていく。また、行事や学年間の取組を通して、学級のよさを学年全体に広めていく。 ・どの児童も学級や学校づくりに関わるように、係活動や当番活動など、主体的に行動できる場を設けて、積極的に取り組めるようにする。 | | |